



令和8年7月31日

四国地方整備局

防災道の駅「あぐり窪川」より 被災地へ防災用コンテナ型トイレを派遣 ～令和8年熊本地震における被災地への支援～

令和8年7月28日に発生した熊本地震の被災地支援のため、四国地方整備局より、防災道の駅「あぐり窪川」（高知県高岡郡四万十町）に設置している防災用コンテナ型トイレを、被災地である熊本県氷川町へ派遣します。引き続き、被災自治体のニーズを把握して、プッシュ型で支援してまいります。

1. 設置場所等

○道の駅「あぐり窪川」 → 熊本県氷川町（氷川町立竜北中学校）
〔到着予定時間8月2日（日）12時〕

2. 防災用コンテナ型トイレの概要

○本トイレは、平常時は道の駅で活用し、災害時には被災地に運搬して活用が可能な防災対応型です。

○浄化処理システムにより、運用時に給水を行えば、水洗用の水は不要。

○快適に使用できるよう、エアコン付き。

※設置場所や到着予定は、状況によって変わる可能性があります。

※本施策は、四国圏広域地方計画「7.1 他圏域との連携プロジェクト」に該当します。

【問い合わせ先】

国土交通省 四国地方整備局

道路部 交通対策課

課長 水野 匡洋 （内線4511）

課長補佐 ○藤原 浩史 （内線4512）

TEL（087）811－8351（直通）

○：主たる問い合わせ先



この地図は国土地理院の地理院地図に加筆したものである

道の駅「あぐり窪川」

○7月31日(金)16時30分頃、防災道の駅「あぐり窪川」から出発
○8月2日(日)熊本県氷川町立竜北中学校に設置予定

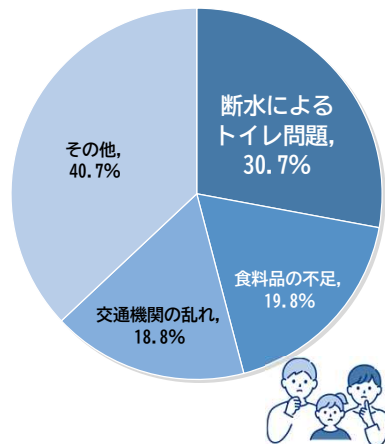
搬送作業状況



四国道の駅 防災用コンテナトイレ

災害時でも
快適・清潔・自立

災害時の最も困ること（被災者アンケート調査）



災害時の「トイレ問題」

- 1 発災後3時間で深刻化
- 2 仮設トイレは、設置遅延・衛生問題
- 3 排泄我慢→健康被害（災害関連死）
- 4 女性・高齢者の利用困難 = 「命と尊厳」に直結する課題

コンテナトイレが解決

～だれでも安心して使えるトイレ環境を実現～

- 1 上下水道への接続不要
- 2 設置後即日利用可能
- 3 水洗式・男女分離
- 4 太陽光発電・蓄電池搭載・商用電源接続可

5年に1回のメンテナンス

※平成30年7月豪雨に関するアンケート調査：
<https://www.prdesse.com/posts/view/16955>



コンテナトイレの3つの特徴

- 1 災害時1日
最大**2000回**
利用可能



- 2 1日**100回**程度の
利用なら回収なく
継続利用可能



- 3 通常の仮設トイレ
7～8基分の
処理能力



平常時×災害時のデュアルユース



道の駅
観光拠点



公園
キャンプ場

平常時



建設現場



避難所



支援拠点

災害時



復旧作業拠点

システム構成

コンテナ本体



トイレユニット 水洗トイレ



処理システム 循環運転



電源

太陽光発電/蓄電池/商用接続可



コンテナトイレは1日100回程度のトイレ利用の場合は循環運転によりバキュームカーによる回収なく継続利用可能。

利用までの流れ

- 1 設置
(トラック搬送)



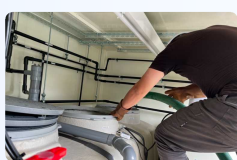
- 2 設営
(コンテナ設置・電源接続)



- 3 即時利用



- 4 維持管理
(清掃・水補充)



能登半島地震における活用事例

2024年1月12日より

被災地に派遣

穴水（穴水町）



トラックで陸路運搬

災害時に
即展開

道の駅「うきは」を出発



設置作業の状況